

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ピース(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		～ 2026年 3月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		～ 2026年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所の活動プログラムが固定化されないように工夫されている。	5領域を基に、支援の中で子どもの様子や意見を聞き入れてプログラムに取り組んでいる。保護者の方々からの相談にも乗りながら、保護者参観や、走り方教室など様々なプログラムを実施する事が出来た。	地域交流、こども園、幼稚園等の交流する機会が少なくなっているため、プログラムを通じて地域交流等も意識し、連携の機会を設ける。
2	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている。	階段に手すりを設置や、トイレなども車いす等も入れる構造でバリアフリー化されている。お昼寝やクールダウン等で静かに過ごしたい時は、個別の部屋や場所でも過ごせるよう配慮している。1階では広いスペースで鬼ごっこ、ボール遊びなども出来る広さがある。	調理活動、おやつ作りなどの際には特に衛生面に気をつけながら手洗い、使う器材の消毒等を活動前後に取り入れる。子ども達が活動に集中して取り組める環境作りを今後も提供する。
3	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされている。事業所の職員から共感的に支援が出来ている。	日頃から児童の様子をスタッフや保護者と共有が出来ており、ニーズや課題を個別支援計画作成に反映する事が出来ている。個別支援計画作成の際は、アセスメントを基に原案会議を全職員で行い、日々の様子、課題、対応等を協議して共有する事で、チームで統一した支援を意識して実施している。	効果的で統一した支援を行う為に、児童の様子を保護者のみならず、相談支援員、園関係者とも情報共有し連携して支援を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会が足りていない。	地域クラブとの合同イベントや、外食活動などで地域の方々との交流する機会はあるが、保育所や認定こども園、幼稚園等との交流が出来ていなかった。	地域イベント等の情報収集を行い、地域のこどもとの交流する機会を増やしていける様なプログラムを作成する。
2	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が足りていない。	送迎時に家庭での困りごとや相談等には個別に対応させて頂き、一緒に支援方法等のお話は出来ているが、保護者が参加出来る研修会などの情報提供が足りていなかった。	ペアレント・トレーニングの研修にスタッフは参加したが、保護者への案内が出来ていなかったため、保護者も参加出来る研修会の情報収集し、案内を行う。
3	父母会の活動の支援や、保護者会等の開催により、保護者同士の交流の機会が設けられているなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援が足りていない。	保護者会等の開催は無く、保護者参観日としてプログラムを実施。当日は保護者やきょうだいの参加もあり楽しんで頂けたが、周知や実施回数が少なく配信が足りていない。	高評価のプログラムだったので、来年度も実施予定。きょうだいの参加も楽しみにして頂けているので、回数を増やしてプログラムやSNS等を活用して配信もしっかりと行い実施していく。